



2016年 11月 15日 20:00:51 スクリーンショット

線量率連続計測中のモンゴル産ラジウム石（通称：ミロク石）であるが 午前9時付近をピークとする1日周期の変化と日光の関係を調べるため可視光を遮断する実験を続けてきた。

石と計測器ガイガーカウンター全体をダンボール箱とふとんで覆い、可視光を遮断していた。前回レポートでは判明していなかったが 遮断から約7日強で周期変動はほぼ収束した。

但し著者は13日、14日と外出しており その間直射日光が室内に差し込まない程度に日よけをしていたことが収束に影響している可能性もある。 まだはっきりしないが帰宅し、室内に日光を取り入れ始めた頃からまた周期変動が若干ではあるが復活しているようにも見える。

なお 11月7日付近から12日付近まで変動のベース値（最低値）が若干底上げされたように見える（図中のA部）。 これは他の石にも同様の傾向が見られることから なんらかの環境変化によるものと思われる。 現時点では原因は不明である。 従ってこの変動分を無視すると 若干の増減は見られるものの、可視光遮断からほぼ直線状に変動振幅が減少していることになる。

このことからミロク石は日光遮断後 石内部の記憶によって線量率の変動挙動を示していたと考えられる。 それはちょうど蛍光物質が照射光を遮断してもしばらくの間蛍光を放ち続けるのと似ている。 但し依然として可視光以外の何らかの太陽光成分が関係している可能性も否定はできない。 また日光があたると何故線量率が低下するのかといった疑問点も未解決のままである。

次なる関心事は日光を復活した場合 どのような挙動を示すかという点。 すんなりと復活するのか、何らかの経過的挙動があるのかという点。 および朝日のあたらない 例えば西日のみあたる場所に移動した場合どうなるか というような点である。 今後実験を重ねていきたい。